

二井知事を囲んで 21世紀パワーアップサミット開催

県政を進める上で、その地域に住んでいる人たちの意見を広く聞こうと、6月2日、湯免の香月美術館を会場として、長門広域圏内の町づくりグループ、文化団体、商工関係者など、代表8名が出席し、二井知事を囲んで「地域政策懇談会(21世紀パワーアップサミット)」が開催されました。

三隅町からは、商工会事務局長・木村操氏、町づくりグループ躍開門の前会長・大草博輝氏が出席し、観光行政についての要望や、若者定住にもつながる地域間交流の推進、美術館等、文化施設のこれからの希望する内容等、積極的な意見が述べられました。

出席者の意見をを受けて二井知事は、「広域的にいかに今ある資源をいかし発展に結びつけるかは、行政のみが考えるのではなく、そこに住む住民一人一人も考えてほしい。そして、ソフト面の盛り上りが地域振興へとつながる」と語りました。



▲ 5月23日 明倫小学校
自転車教室(5・6年)
先生たちの指導で正しい乗り方を再認識しました。



交通事故「0」を目指して、町内の各学校で交通安全教室が開かれました。日頃乗り慣れている自転車も、人前で交通ルールを気にしながら乗るのは緊張するらしく、ハンドルを握る手にも力が入っていました。正しく乗って交通事故に合わないように気をつけてほしいものです。



◀ 4月9日 三隅中学校交通安全教室
指導は、長門警察署交通課の皆さん



夏の夜空に映える花火。最近の花火は輸入品が目立つようですが、打ち上げ花火の技術は日本の自慢——涼しい河原で浴衣がけで、うちわ片手に花火を見る……。まさに日本の夏の情緒です。

花火

いま、各地で地域おこしのための花火大会が、盛んに行われるようになっていきます。大小合わせて、各地で年に三万件ほど開催されているようです。そのうち、都道府県知事の許可によるものは、約七千件に上ります。

「あそここの花火大会は『尺玉』が上がるからすごい」などという言葉を聞いたことがあるかもしれません。これは昔からある言葉ですが、今は『尺』という単位は使いません。昔の一尺玉は現在の一〇号です。※いまのところ、国内の花火大会で最大の玉は、信濃川のほとりで開催される、新潟県小千谷市の片貝祭り花火大会の四〇号玉です。

打ち上げ花火の見事さの基

準備は、まず打ち上げられた玉が、上空で一瞬停止してから開くこと。上昇中や下降しながら開くのは駄目。次に星が真ん丸に開き、そして消えるときは一斉に——。

こういうことを知っておけば、花火をより一層楽しく見ることが出来ます。

近郊の花火大会

「秋吉台花火大会」

7月20日 20:00

「仙崎祇園祭花火大会」

7月23日 20:00

「萩夏まつり花火大会」

8月1日 20:00

「油谷町 夏まつり花火大会」

8月16日 時間未定



※一尺は約三〇センチメートル